

## 「福岡市環境審議会 環境保全・創造部会」報告

## 1 開催日時等

## (1) 開催日時

令和7年8月18日(月) 10:00~12:00

令和7年11月5日(水) 14:00~15:30

## (2) 開催場所

TKP ガーデンシティ PREMIUM 天神スカイホール ウェストルーム

## (3) 議題・報告

議題：生物多様性ふくおか戦略の改定について（方向性、骨子案）【8/18、11/5】

報告：一般環境大気測定局（祖原測定局）の移設について【11/5】

## (4) 出席者（10名） ※1：8/18欠席、※2：11/5欠席

松山 倫也	委員（部会長）	石橋 勇志	委員
今林 ひであき	委員	押川 千恵	委員 ※1
包清 博之	委員 ※2	菊水 之恵	委員
野村 久子	委員 ※2	原田 昌佳	委員 ※2
山内 勝也	委員	山田 ゆみこ	委員

## 2 議題「生物多様性ふくおか戦略の改定について（方向性、骨子案）」

## (1) 事務局からの説明概要

生物多様性ふくおか戦略の改定の方向性及び骨子案について説明を行った。

## (2) 審議内容

事務局の説明後、各委員より、方向性や骨子案について事務局への確認や意見があった。議論を踏まえ、事務局と調整のうえ、環境審議会総会に報告することとした。

## (3) 主な意見と考え方等

## 【8月18日】（方向性について）

意見	意見に対する事務局の考え方等
「横断的手法」をどう組織立てるかが大切であるものの、全体を見据えた取組みの組み立て方、位置づけ、仕立て方については、現段階では「横断的手法」という言葉だけで表現されており、具体的なものが見えないと感じる。	基本的方向3「活かす・つなぐ」を基本的方向1「知る・学ぶ」、基本的方向2「守る・増やす」の達成に向けた横断的な取組みとし、「横断的手法」は基本的方向3に包含する。
基本的方向3の「活かす・つなぐ」は、今ある活動や取組みをつなぐことで「知る・学ぶ」「守る、豊かにする」こと、つまり基本的方向1と2の方法になっているのではないか。このため、これら三つを並列することには違和感がある。	
現行戦略のふりかえりの評価について、改定の方向性を考えるにあたり、その理由を精査する必要がある。	市の将来像や目標実現のため、課題と基本的方向、施策、取組みの結びつき（因果関係）を整理する。
現行戦略のふりかえりから、改定後の基本的方向の1～3の設定までの流れについて整理しているが、理由や取組みがどうつながるのかが見えづらい。	
ボトムアップのアクトとしてこれらの取組みが重要である一方で、今回の戦略はそれらがどうつながり、どこに向かうのかを示すことが重要である。	

【11月5日】（骨子案について）

意見	意見に対する事務局の考え方等
<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的方向1～3の繋がりが見えない。全体の中で基本的方向1～3の有機的繋がりを見せることで将来像のイメージを共有できるのではないかと。</li> <li>施策体系を見ると、成果指標や取組み例も基本的方向1、2が充実していて基本的方向3が手薄に見える。1～3をうまく繋ぐと充実するのではないかと。</li> <li>本骨子案では、基本的方向1、2は自然を守るための施策で、基本的方向3が基本的方向1、2と相反するように見える。</li> </ul>	<p>基本的方向1～3の有機的な繋がりが見えるような表現方法や内容充実等を検討する。</p>
<p>生物多様性の浸透のために第一にやるべきことは、市民にデータをわかりやすく提示することである。希少種や代表種だけでなく、幅広い生物種のデータを客観的にわかりやすく提示してもらいたい。</p>	<p>ホームページに記載している自然環境調査の結果、「生物多様性マップ」等のデータについて、効果的な提示方法を検討する。</p>
<p>新興感染症が自然に与える影響など、人と自然の関係における生物多様性はどうかを戦略に示してもらいたい。</p>	<p>ご意見を踏まえ、素案への記載を検討する。</p>
<p>市民参加でモニタリングを行うことは良いが、内容に偏りが出る可能性がある。バランスよく、多様な調査が行われていることがわかるとよい。</p>	<p>—</p>
<p>スギ・ヒノキ材の樹種転換を推進していくことが日本全体で課題となっている。地域産木材を活用しながらどう森林を守っていくのかを戦略の中でも触れられるとよい。</p>	<p>—</p>
<p>施策体系に記載されている成果指標のうち、あたまが「○」のもの、「・」のものがある。注釈等を明記する必要がある。</p>	<p>注釈を追加する。</p>
<p>指標案「環境に配慮した活動を行う企業が増えていると思う市民の割合」について、市民に見えにくい企業の活動を評価できる指標も検討すべきである。</p>	<p>関連部局等と調整のうえ、施策の効果を適切に評価できる指標を検討する。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>成果指標、参考指標の「現状維持」が目につく。具体的な数値目標を掲げることはできないのか。</li> <li>各部局との調整により「現状維持」との表現になっていることは理解するが、環境局がイニシアチブをとってほしい。</li> </ul>	<p>ご意見を踏まえ、目標について検討する。</p>

3 報告「一般環境大気測定局（祖原測定局）の移設について」

(1) 事務局からの説明概要

祖原測定局移設に係る経緯、移設予定地及び移設後の名称等について説明を行った。

(2) 主な意見と考え方等

意見	意見に対する事務局の考え方等
<p>測定局の配置基準等は定められているのか。</p>	<p>常時監視は法定受託事務であることから、国が事務処理基準を定めており、人口や可住地面積等をもとに測定局の必要数を算定して配置している。</p>